



日本サーバス本部会報 2015/11

国際サーバス第30回総会

3年に1度開催される Servas International (SI) の第30回目の Conference 及び General Assembly(GA) が10月10日~16日、New Zealand、Matamataの郊外、Totara Springs でありました。MatamataはAucklandから120kmの所にあり、一帯は世界的にも珍しい大地熱地帯で、会場の Totara Springs にも温泉を利用したミネラルプールがありました。季節は丁度春の始まり、日本よりきれいかと思う位桜が満開、一斉に咲きだした花、美しい自然に言う事なしです。会場はホール、会議室、体育館、宿泊施設が整ったキリスト教関係の研修施設で、貸し切りでの利用でした。参加者は当初150人の予定でしたが希望者が多く、200人に増やしての盛会となりました。

日本からの参加は日本サーバス会長、東海北陸支部 O.T, 近畿支部 I.M,&H.T、九州支部 M.S の5人でした。日本サーバス会長は日本サーバスの Delegate として日本サーバスからの旅費の半額補助あり、他は Observer としての参加でしたが、国内会議の決定「日本サーバスユースの役員が参加出来ない時は、代わりに若い参加者一人を日本サーバスからの旅費半額補助付きとする」により、O.Tさんがそれにあたりました。他の3人は自費での参加です。

会議の運営には、国際サーバスの役員をはじめ、多くの会員が司会、通訳等の任に当たられました。又、ニュージーランドのサーバスは会議の運営だけでなく、Brief of Day Out と設定されている全員参加の観光時には、ロトルア等行った先々で現地の会員が案内をして下さり、会議中も Observer のために、自家用車で観光案内をして下さいました。多くの協力に感謝します。

以下、参加者からの会議前後のニュージーランドでの旅も含めた SICOGA2015 参加報告です

日本サーバス会長

会議は NZ (ニュージーランド) サーバス副会長の開会スピーチで始まりました。非常に重いテーマを掲げた、インスピレーションを喚起する、その後の議論に期待を持たせるスピーチでしたので、以下に全文日本語訳を掲載します。

「2015年、行動への呼びかけ」 ニューージーランドサーバス副会長

私たちは、第30回サーバス総会のために、5つの大陸すべてから58ヶ国200名がここに集まりました。サーバスの創設から66年になります。1949年に一団の良心的兵役拒否者(Conscientious Objectors)がデンマークに集まりました。彼らは世界に永続する平和をもたらす生き方(ways of living)を開発することを目指し、また、戦後世界の中で若いドイツ人が国外ではどのように受け入れられるか知ることを望んでいました。そうして「労働と旅行(Work Travel)」プログラムが始まりました。彼らにはステイできるホストの名前が教えられ、彼らは自分のできる方法で地域のコミュニティに貢献する活動に参加しました。彼らは他者について多くのこと — どのように考えているのか、どのように生活しているのか、何が問題になっているのか — について、他者の話を聞いてそれを共有することによって学びました。そしてこれらの学びは、ホストの家で家族と生活を共にする中で得られたのです。一人のホストが次のホストを紹介し、彼らが旅行する中でネットワークが成長していきました。ホストの家では食事と横になる場所と暖かさが提供されました。それは安全な経験でした。個々の家庭の諸活動に参加できる仕組みと参加への招待がありました。それは、自分の物語に関心を持つ他者と、その他者の物語に関心を持つ自分が所属(belonging)しあう体験でした。自分がより良い世界に関心をもつ人々のグループの一員であると感じることができました。そのような交流を通して信頼が醸成され、サーバスが成長しました。各国がホストリストを作成し、面談(interview)とLOIの発給を伴う会員制度が整備されました。2泊のステイが標準となりました。

第二次大戦が終結してから今年で70年になります。しかし今でもシリアや北アフリカの数ヶ国では戦争が荒れ狂っています。何百万の人々が家を追われて安住の地を求めています。昔の話とどこが違うのでしょうか？これらの出来事は民主主義の土台を危うくする地震ではないのでしょうか？震災後の光景はどのようなものなのでしょうか？復興はどのような姿をとるのでしょうか？私たちは何を望んでいるのでしょうか？サーバスのようなネットワークはステイする場所を提供することができるのでしょうか？それは暖かい場所でしょうか？その親切心は信頼されうるものなのでしょうか？あなたは難民の家族を助けることができますか？これらはとても大きな質問です。

先月、私は元 EU 外交官である伯父をブリュッセルに訪ねました。ブリュッセルでは、信号で停車するたびに物乞いの人に車窓をノックされることが稀ではありません。驚いたことに伯父はそのたびにコイン1, 2枚を与えていました。私はなぜそうするのか伯父に尋ねました。そのような施しは相手の依存心を強め、ひいては持てる者と持たざる者の分断された社会を作ってしまうのだと教えられているからです。私は Lonely Planet 社の旅行案内書から、貧しい人々の支援に貢献する他の方法があることを学びました。例えばインドで海岸のプラスチック袋を清掃したり、孤児院で手伝いをしたり、ナッツを買って物乞いする子供に与えたり（少なくとも子供たちが実際に食物を口にしていることを知ることになります）する方法です。私の質問に伯父はとてもシンプルに答えました。「人間の最も

深い願望は、他者と絆を持つこと、その時点で自分が何者であるかが理解されることなのだ。」その後、注意して観察していると、伯父は施す際に物乞いとアイコンタクトをとりながら、温かい微笑を浮かべて親切な言葉をかけたり質問をしたりしているのです。一瞬の間、希望が物乞いの顔を支配するのがわかりました。親切な気持で絆を持ちかけたり作ったりすることが希望を与えたのです。これは私たちの能力の範囲内の行動ではないでしょうか。

私たちの快適な生活と、家を追われた人々の生活との間にある、このスペースに踏み込むことが、新しいサーバスに求められています。答えを知るだけで満足してはなりません。毎日、何百何千という人々が安全と新しい生活を求めて自分の家を後にして歩いているのを目の当たりにしています。その規模の大きさは、第二次大戦後やルワンダの紛争を思い起こさせます。私たちサーバス会員は、個人としてあるいは全体として、このような人間の状況にどのように対応することができるのか、ここ数日の間に探究し、考察し、語り合うことを、私は皆さんに要求します。

マオリ族の賢い酋長が、この世界で最も偉大なものは何かと尋ねられたとき、彼は答えました。「人々だ、人々だ、人々だ。」

これは選択の問題です。私たちは、サーバスの発展に役立てるために、自分のマインド、ハート、ユーモアのセンス、さらには自分のあらゆる能力を、どのように用いればよいのでしょうか？

[開会スピーチ日本語訳 以上]

しかし期待に反して、用意された議案はいずれも現状の問題点を改良する技術論が多く、しかも「検討委員会を設置する」「次回国際会議に提案する」などが目的では、サーバス全体や各個人の価値観に触れるような本質的な議論にはなりません。議題をめぐる討論が低調だったばかりでなく、SI（国際サーバス）本部役員選挙でも、会長・副会長・ピースセクレターは再任、事務局長・会計役・ホストリストコーディネータは経験者の返り咲きでした。若い対立候補も立っているのですが、実績のある年長者に票が集まりがちで、さすがに分科会などでは若い会員からフラストレーションの声が上がっていました。国際サーバス会長個人は、IT化によるコミュニケーションの質の変化がサーバスの発展を導くことを確信しているようですが、私個人は何がどのように進化向上するのか、色々な人に聞いてもついにわからないまま帰ってきました（すみません）。今後のSIホームページやSI Newsに注目したいと思います。

形式的には私は日本サーバスの Delegate として会議場に張り付き、議案ごとに国名表示板（白地に赤い楕円で、日の丸よりも目玉焼きに見える。NZ人の日本認識はこの程度か？）を挙上して賛否の意思表示を行いました。おかしな点があればスックと立って滔々と弁じる覚悟はあった？のですが、遂に発言の機会はありませんでした。一度「トラベラーによるホストの評価をネット上に公開すべ



し」というトンデモ提案があったので、「アホか。さっさとカウチサーフィンへ行っちゃまえ」と発言しようと思ったのですが、オーストラリア代表が「ホストはいかなる状況下にあっても評価されるポジションにはない」旨を理路整然と述べてその議案をボツにしました。



ポーランド大会のTさんに触発されたか韓国チームのオカリナ伴奏によるアリラン



東アジアサーバスの新しい顔。
左端は中国のJ.H 右端は台湾のW.M



好評を博した日本の
夕べの折り紙教室

以下に**議決事項の概略**を紹介します。

1、加盟国の消長

加盟国(Member Group)として認定されたのは、ルワンダ、ベトナム、バングラデシュ(再加盟)、ブルガリア(再加盟)で、加盟国から National Group に格下げされたのは、ケニヤ、スリランカ、ボリビア、ウズベキスタンです。加盟国の条件は(1) 10名以上の会員がホストリストに登録されている、(2) 常時連絡の取れる役員が3名以上選任されている、(3) 年次報告書の提出を2年以上怠らない、です。格下げ国のうちスリランカは日本サーバスとの間に過去40年以上の交流があるので、上記条件の機械的な適用による格下げ動議には賛成しがたく、棄権しました。中心人物が引退されたか亡くなられたかして、連絡が途絶えたものと思われます。フィリピンにも古い会員はいるはずなのですが、今回も再加盟の動きがなかったのは残念でした。この2ヶ国のサーバスの近況をご存知の方は私までお知らせください。

2、会計関連

SIの会計年度を現行の1月～12月から4月～3月に変更することになりました。SIの唯一の収入であるスタンプ代金の徴収や計算の便宜のためです。今年度は2015年1月から2016年3月までが会計年となります。

2012年～2014年の決算報告と2016年～2018年の予算案が承認されました。予算規模は2012年の実収入額78,000 CHF(スイスフラン。約950万円)と2013年の89,000 CHF(約1,100万円)の間を取って各年80,000 CHFとしています。つまりSIは年間約1千万円の予算で運営されており、その配分方針が今会議で決定したわけです。

「国際サーバス・ユース基金」は、2009年総会の決議に基づいて暫定的に英国サーバスが管理してきましたが、これを正式に英国のCharitable Trust法に基づく法人として登記し、英国サーバス会員がTrusteeを勤めるが、実際の管理と分配は英国サーバスから独立した委員会の手で行うことになりました。「なぜ英国に持って行くのか」議論がありましたが、

後述のように SI はスイスに事務所があるわけではないので、英国法下の組織とした方が資金保全や継続性、透明性の確保に有利と考えられたものです。

3、サーバスの活動目標

サーバスの rejuvenation(若返り)のための委員会を新設して、2016 年末に報告書を作成させることになりました。肝心の委員はまだ選任されていません。日本サーバスからどなたか立候補して活躍してみませんか？サーバスをもっと family-, child-, and youth-friendly な組織にすべきだとの意見があり、そのためのアイデアや活動方法を募ることになりました。SOL(Servas On Line)経由の情報提供や意見交換が求められています。2泊のステイを標準としつつも、SYLE (Servas Youth Language Exchange) プログラムのような、より深い交流や長期の体験を提供するための活動を開発し強化すること、およびサーバス内に特別な興味関心を持つグループのネットワークを育成することが決議され、そのために SI ホームページに「Making Connections」や「Special Interest Networks」や「Servas Environmental Network」といったサイトを設けることが予定されています。それとは逆に、ホストとトラベラーの合意による 1泊だけのステイを公認することが決議されました。例えば NZ サーバスでは、1泊だけのステイはサーバスの趣旨に反するとして明白に禁止していたのです。

サーバストラベラーは、自分の旅行自体が社会や環境にインパクトを与えることを自覚して、「Travel peacefully and walk lightly on the earth」をスローガンとする「ethical travel」を推進することが決議され、そのためのネットワークを構築することとなりました。

サーバスと国連との関係を強化する戦略を策定することになりました。SI は国連の部局である社会経済理事会に、1973 年以来レベル 2 で登録された NGO であり、国連の諸会議を傍聴し、求めに応じて発言し、意見書を提出する権利(Consultative status)があります。(レベル 1 は国際赤十字や国境なき医師団のような大規模 NGO。レベル 3 は国連広報局に登録して資料をもらうだけの NGO。) ニューヨークの年次総会およびジュネーブとウィーンの諸会議には代表者を派遣していますが、その報告を受けるばかりでなく、国連の掲げる SDG s (Sustainable Development Goals これについては後日紹介します)に呼応して SI あるいは各国サーバスの活動を活発にすることが求められています。

4、サーバスの機構改革

SI を世界中で法的に安定確実な国際 NGO とするために、今後 3 年間に約 250 万円の予算を投じることが承認されました。実は現在の SI は法的には住所不定で、仮にスイスの会員の個人住所を使って国連への登録や銀行取引をしているらしい。この状態を改めることは長年の課題でした。今度こそ良い法律事務所を見つけて、上記の時間と費用の範囲で満足できる成果が出ることを期待しましょう。

6 名の役員と各種委員会からなる現在の SI の構造を、各国サーバスと協議しながら見直して、「平和団体としての核心的な価値感を維持しつつ、柔軟で未来志向型の組織」とするような改革案を、次回 2018 年総会までに準備することになりました。同時に、地域の特性

を考慮した各国サーバスの強化発展策を検討し、必要ならば次回総会で SI 規約改正に結び付けることになりました。

SI の下に、ホストとトラベラー間の紛争や各国サーバス内部の揉め事を調停するための国際的な「Complaint Resolution Committee」が設けられているのですが、さらには世界中のサーバス会員が守るべき「Code of Ethics and Behaviour」を制定する動きがあります。何とも保守的な響きですが、その背景には現実に日本で起こっているようなトラブルが他国でも発生しているのかもしれませんが。（会議場では具体的な話を聞く雰囲気ではありませんでした。）

5、外国人の認定問題

自国の定住者でない外国人に LOI を発行するについて、以下の基準が提案されました。

- (1) インタビューは必須である。インタビューする前に本国のサーバスに照会して、本国のサーバスでトラブルを起こした人でないことを確認する。必要ならば本国の役員と Skype によるインタビューを行わせる。LOI を発給した場合は、必ずそのコピーを本国のサーバスに送る。
- (2) インタビューアは、サーバスに関するあらゆる情報をトラベラーに伝達しなければならない。
- (3) LOI を発給する場合は、”in-transit”(通過者)の認定であることを明記する。
- (4) 本国に帰国したら、本国のインタビューアと面談することを義務付ける。
- (5) その LOI の有効期間中に他国を旅行する場合は、発給国のインタビューアと本国のインタビューアとに連絡を入れることを義務付ける。
- (6) その LOI の更新は、本国でのみ可能とする。

この基準だけで、2013 年に日本で起こった米国人トラベラーのような問題が解決するか疑問です。総じてインタビューアの責任は自国のトラベラーに対するよりも重くなります。確定した基準がサーバス・ハンドブックに記載されるまでにはまだ議論があると思います。

6、次回総会の時期と場所

開催年は 2018 年に決まりましたが、開催地は今総会では決まらず、今後 1 年くらいの間には SI 執行部が調整して決定することになります。韓国サーバスが立候補したとの噂があり、実現すれば日本の会員には好都合ですが、決定ではありません。韓国の S さんの話では、会議自体の設営は可能と思うが、会議場の外へ出れば英語が通じにくく、多数の参加者が英語国の場合のようにスムーズに往来、行動できるか心配がある、とのことでした。

東海北陸支部 O.T

10月8日朝。

オークランド空港の到着ロビーに行こうとするや否や、「SERVAS」のサインを掲げたお出迎え。ほっとしたのと同時に、サーバスの温かみに最初に感謝した瞬間でした。

さらに、私たちワイヘキ島に泊まる組は、できるだけ一緒にフェリーに乗って現地に行くようにという NZ チームの配慮に大感謝。ひとりで心細いなあと内心想っていたので本当に嬉しかったのをよく覚えています。ワイヘキ島とオークランド市街は天候が違うことが多いみたいで、また、ワイヘキ島の方が、春真っ盛りといった感じでした。人も自然もウキウキしていました。



ホストの K さんのお宅では、お庭のお野菜を摘んでそのままサンドイッチにして頂いたり、薪オーブンで焼いたラザニアを頂いたりとまるで夢のようなひとときでした。私以外の会議参加者として、中国人だけれど現在スウェーデン在住の H さん、フランスのアヌシー在住の A さん & D さんも同じお宅にお世話になりました。



また、イギリスから WWOOF で来ていた W さんは私たちが来る前から滞在していて、玄関からお宅までの山道を整備、飾りつけする作業をしていました。彼は、まだ 20 代ですが、大変しっかりとした働き者で、旅行も国際交流も大好きとのことだったので、彼もサーバス入会を決意することになりました。

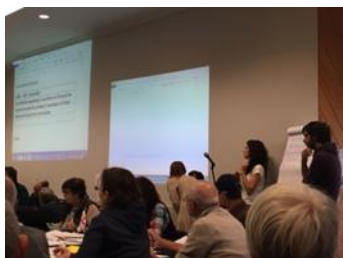
2 日目は K さん宅にお世話になっているみんなで Bushwalk を楽しみ、誰もいない素晴らしい眺めのビーチの傍でピクニックをして、夜はワイヘキ島グループで歓迎交流会でした。持ち寄りの食事はどれも美味しく、全部で 20 人弱でしたが、歌もダンスも披露する、和やかな会でした。私は春なので「さくらさくら」を歌いました。こういうエンターテイメントもしばしば求められるので、歌や踊り（よさこい等も良いでしょうか）、または浴衣を着るだけでもより一層、皆さんと仲良くなれるチャンスが増えると思いました。



10 月 10 日

日本サーバス会長から命じられた今回の 2 つのミッションの遂行に尽力しました。

- ① 会議の雰囲気を知ること、サーバスの組織について見聞を広めること。
- ② できるだけ多くの人に顔と名前を売る、特に若い人たちとのコネクションを強く持つこと（顔写真付き、自己紹介付きの名刺が大活躍です(*^^*)）



今回の会議のメインは、サーバスオンラインの刷新。また、ワークショップなどを通じて、どうやって新しい人たち、若い人たちにアピールするかについても、比較的多くの時間を費やしました。まさに日本サーバスが懸念していることも沢山議論されていて、大変興味深かったです。

全体会議では、各国の代表が投票や質問する際はハンドメイ

ドの札を挙げるなど、アットホームな印象もある一方で、選挙のプロセスや投票、集計など、さすが組織として、きちんとしているな、という印象でした。また、年代国籍性別問わず、どの人もサーバスの将来に対して真剣に考えていて、またとても熱心なので、圧倒されました。「誰かがやる」ではなくて、「私がやる！」という意志に私も刺激を受けました。ただ、全体会議では、同じ国ばかりがマイクを独占している印象が終始あって、そこだけが少し不公平感というか、残念でした。(どうしても英語のネイティブスピーカーが代表を務める国、もしくは、自己主張が元から得意な人たちがどんどん会議の時間を吸い取ってしまう感じです。因みに、スペイン語は同時タイピングなどもありました。)



一方、ワークショップでは、活発な議論が色々な人から飛び交い、私も発言をさせてもらいました。ちょっと上手く言えなかったですが、伝えたかった論旨はこちら↓

サーバスは、組織として西欧諸国に独占されることは好まないはずで、またそれ以外の地域の声も無視したくないはず。一方で、アジアの人々はそのままで自己主張はしないという特性がある。であれば、英語のノンネイティブ、特にアジアの人々でも会議などで発言しやすい環境を作っていくこと、同時にサーバスにおけるアジアの存在感を出していくためにも、アジア地域内で強いネットワークを築くことがこれから大事になる。それが各地域でできて初めて、徐々に地球規模で手をつなげられるのではないか？

例えば、

「みんなが思ってもなかなか言えなかったことをよく言ってくれた」、

「サーバスにとって今、必要なもののひとつは” diversity=多様性”。“層の偏り”は、大きな問題だ。」

「これからは、もう少し各地域の人々の特性も配慮して国際会議を進めるべきだ」などこんな私の拙い発言でも聞いてくれて、反応してくださるサーバスの人々の懐の深さに感激しました。

その他にも、

Q「どうやったらサーバスの官僚的な部分を減らせるか？」

「サーバスは NGO なのだからお役所仕事が多いのは仕方がない」

「もっと委員会を信用すべきでは？」

「サーバスオンラインの刷新が成功すれば随分状況は変わるはず」

Q「どうやって新しい人の入会を促し、また、どうユースメンバーを育てるか？」

「各国で、大学などの教育機関にプロモートできる既存のメンバーを募ろう」

「そのためにも、予め想定される質問に対して FAQ を用意しておくのはどうか」

「ある程度、各国で新規入会獲得の目標数を掲げた方がいい」「スペインのようにサマーキャンプを行うのはどうか」などなど。

また、会議期間中、食事中などでも私たち参加者の会話の中でよくあった問題定義は、

Q「私たちは平和団体なのだから、平和活動をしないと。このままでは Couchsurfing との差別化ができない。」

「政治的な問題に触れるなどセンシティブな側面がある」

「今、一番緊急を要する難民の受入にサーバスは何か役立てないだろうか？」

「例えば直接ホストをしなくても、例えば逃れてきた人たちが、その地域に馴染んで自立できるように支援することはできるはず」

これらは一部ですが、色々な意見が出て、会議やワークショップの時だけではなく、大変面白いディスカッションができた期間でした。

余暇：NZ チームや会場兼宿泊地の **Totara Spring** 主催で、色々なアクティビティ（牧場見学やハイキングや **Flying Fox** など）やロトルアやタウポ湖への日帰りツアーもあり満喫した一週間でした。（とくに **Totara Springs** での満点の星空の下の天然温泉のホットプールが最高でした～～！！）

今回こちらに来てみて、当初思っていたよりも **Youth** メンバーの存在感が強く、とても積極的なのが印象的でした。彼らの多くは **20** 代後半～**30** 代ですが、日本と違って有給が数週間もあることが多いのと、休暇を取ることに對して周りに遠慮しなくていい傾向がほとんどで、そういうところも、日本の社会では **Youth** メンバーが育ちにくい理由のひとつなのかなと思いました。

また、サーバス日本のトラベラー、ホストの印象は、共にとても良い印象を持ってくださっている方が多く、日本に是非行きたいし、どんどん来てほしいとのこと。その際はお寿司も勿論いいですが、どうぞ、海外でも調達して作れそうな日本の家庭料理（例えば肉じゃが、お好み焼き、日本のカレーライスなど）や郷土料理もどんどん振舞ってあげてください～（^o^）

最後に、全体を通して、もっともっと自分の考えや気持ちを表現したり、相手の意図を汲み取ったりするためにも、自分のコミュニケーション能力を伸ばしていこうと思いました。とても貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。今後のサーバスの活動に活かせるよう、より一層努力いたします。

インタビュー

Lさん（女性） オーストラリア、メルボルン 弁護士

① サーバスを知ったきっかけは？

2003年夏に東欧旅行を計画していたところ、友人の一人が元サーバス会員で、彼女がサーバスを利用してロシア旅行した時のことを聞き、すぐ入会。

② サーバス会員であり続ける理由は？

今まで意義深い経験をし、色々な側面から物事を見ること

の大切さを実感してきた。これからも新しい人々に出逢っていきたい。また、CouchSu



rfing よりもサーバスであれば安心して旅行できる。

- ③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

東欧諸国、カナダ、マダガスカル、ナミビア、ニュージーランドなど 10 か国。

- ④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

サーバストラベラーとしては 1 カップルだけ。CouchSurfing は、週に 6 人くらい連絡が来るけど、サーバスは年に 2 人くらいしか連絡が来ない。ウェルカムなので、もっとメルボルンに来てほしい。

- ⑤ サーバスで最も印象に残っていることは？

スロベキアに旅行した時、第三番目に大きな都市に夕方 5 時ころ着いた。その日、たまたまスロベキア対オランダのサッカー対戦があり、ホテルはオランダ人の予約でどこもいっぱい。どうしようと困り、ダメもとで本当は 1 週間前に連絡しなければいけないホストのところに電話したら、幸運にも泊めてもらえることに。さらに面白かったのは、彼はスロバキアではちょっとした有名人だったこと。南米旅行の旅行記で有名になり、さらに彼らのハネムーンは、ウエディングドレスとタキシードを纏ったまま、ヒッチハイクでヨーロッパ中を周ったという話が最高だった。彼のおかげで、その後の東欧旅行で初めてヒッチハイクに挑戦し、ヒッチハイクで旅行することの醍醐味を覚えた。このように、サーバスによって、思いがけない体験、面白い話、人に巡り合える。これ以上の素晴らしさはないだろう。

P さん (男性) アルゼンチン ブエノスアイレス 建築士

- ① サーバスを知ったきっかけは？

2001 年、イタリアにいる、いとこが元サーバスメンバーでサーバスの存在を教えてくれて、2002 年に入会。

- ② サーバス会員であり続ける理由は？

今までの経験。トラベラーとしてもそうだけど、ホストとしての経験も素晴らしく、自分の人生を豊かにしてくれている。自分が行ったことのない国の人に来てくれるたり、ホストするだけでも、良い刺激というか交流が生まれる。ゲストのおかげで、普段の日常が変わるといっても過言じゃない。

- ③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

ヨーロッパ諸国、北米、南米、中東、ニュージーランドなど 25 か国。

- ④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

30 人ほど。ヨーロッパ、南米、タイ、インド、パキスタンなど。

- ⑤ サーバスで最も印象に残っていることは？

スイスに行った時のこと。自分の到着時刻にホストが不在だと事前にわかっていたため、鍵を置いておいてくれた。見ず知らずの僕のために。夕食は、湖のすぐそばで楽しみ、本当に彼らの日常、彼らしか知らない文化を共有してくれた。このように、信頼関係やこういう日常を共有する経験は、自分が例え億万長者であっても、お金では買えないも

のだと思う。

Rさん(男性) メキシコ、メキシコシティ 機械工学士、自営業(太陽光発電システム事業)

① サーバスを知ったきっかけは？

200年、大学時代に友人が勧めてくれた。少ない予算でも、サーバスなら世界を旅できるよ、と。

② サーバス会員であり続ける理由は？

サーバスは色々な文化や意見を知るきっかけを与えてくれる。

2007年にサーバスインターナショナルがイギリスに英語を勉強するのに、金銭的補助をくれた。そこで、英語だけでなく、多くのことを学ぶことができた。2010年、ドイツに住んでいた時、サーバスドイツに所属していたおかげで、ドイツ中を旅行できた。サーバスを利用した旅行は、どこにいても快適で、安心できる。

③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

ドイツ、フランス、イギリス、スペイン、デンマーク、スウェーデン、チェコ、ポーランド、アメリカ、ニュージーランドなど10か国。

④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

約50人。ドイツ、オーストリア、アルゼンチン、コロンビア、アメリカ、カナダ、ロシア、ブラジル、日本など。

⑤ サーバスで最も印象に残っていることは？

自分のパートナーがメキシコのユースコーディネーターをしていたのだが、その時 SYLE プログラムを利用してメキシコに来たのが、サーバスインターナショナルの前会計係である、ポーランドの M さんところのお嬢さんだった。彼女はメキシコ人の男性と恋をして、結婚することに。すると、M さんが結婚式に招待してくれて、2010年にワルシャワへ行った。雪の日の、ウォッカしか飲まない(!) 結婚式はとても楽しく、ただ、いつも陽気な M さんだけではずっと静かにまじめにしていたことがすごく印象に残っている。サーバスを通じて、運命の出会いに触れ、特別な人間関係を築くことができ、とても嬉しく思う。

Mさん(女性) フィンランド Peräseinäjoki 秘書

① サーバスを知ったきっかけは？

サーバスメンバーだった叔母さんから話を聞いたのがきっかけ。

② サーバス会員であり続ける理由は？

トラベラーとしてよりも、ホストよりも2008年のドイツでのミーティングとトルコでのユースミーティングが最初のサーバス体験で、その時出逢った人々の素晴らしさや貴重な思い出が今でも忘れられないくらい強いモチベーションにつながっている。

③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

ドイツ、デンマーク、トルコ、スペイン。

④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

ドイツ、トルコ、スイス、台湾、フランスの5人。

⑤ サーバスで最も印象に残っていることは？

2008年のトルコユースミーティングで、最終日、泣きそうな顔をしていたら、ポーランドのYさんに、「泣かないで、またすぐ会えるから」と言われたことが印象的だった。あと、2012年のポーランドでのユースミーティングの際は4人の子どもたちと一緒に参加したけれど、いつも誰かが子どもたちの世話をしてくれるから、安心して、参加できた。

Aさん（女性） トルコ アンカラ（今はオーストラリアのメルボルンで修学中）

① サーバスを知ったきっかけは？

2012年に、妹が、旅行先で知り合った女性からサーバスのことを教えてもらい、その話を私も聞いて興味がわき、彼女に連絡を取って詳しい話をきいたのがきっかけ。

② サーバス会員であり続ける理由は？

旅行が大好きだから。新しい人に出逢うのが大好きだから。教科書で習ってきたことは、敵国のことばかり。「トルコは敵に囲まれている」と。でも、それは間違いだと分かった。新しい人に出逢うことで、「敵は自分の頭の中にしかない」ということが分かった。

③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

まだ入会して2年なので、ニュージーランドを含めて3か国。

④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

まだホストをしたことはないけれど、ウェルカム。（特に日本の「ベルばら」は子どものころから繰り返しアニメも見ていて、日本にとっても興味があるのでぜひ行きたいし、もっと日本についても知りたい。）

⑤ サーバスで好きなところは？

利害関係なしに、様々な年代や文化や考えを持った人々に出逢えることだと思う。

Lさん（男性） ロシア出身（今はラトビア在住） 翻訳家

① サーバスを知ったきっかけは？

自分が9歳の時、両親がサーバスに加入したことから。

② サーバス会員であり続ける理由は？

サーバスは僕にすべてをくれたから。

#1 語学（今、翻訳家として英語、フランス語、イタリア語⇔ロシア語のキャリアを歩んでいけているのも、サーバスのおかげ。）

#2 大切な友達。（その範囲は100か国以上にも及ぶ。）

#3 奥さん。（2012年のポーランドでのユースミーティングで出逢ったラトビアのユース代表が今の奥さん。）

③ 今までサーバスを利用して旅行した国は何か国？

ヨーロッパ諸国、中東、アルゼンチン、ウガンダ、ケニアなど十数か国。

④ 今まで受け入れたサーバストラベラーは何人？

15 人くらい。ポーランドやイスラエル、フランス、イギリス、タイ、日本、台湾、カザフスタンなど。

⑤ サーバスの好きなおところや最も印象に残っていることは？

サーバスは別世界をもたらしてくれる。あなたの世界もすぐに、完全に今までとは違うものになるだろう。それと、フランスで、92 歳と 93 歳のご夫婦が僕のことをロシアの孫だと言ってくれている。これもサーバスの素晴らしさを象徴している言葉だと思う。

その他、Servas Youth について情報共有したことを FAQ 方式でシェアいたします：

① Servas Youth について、もっと詳しく知りたい場合は？

Servas Youth Leadership Committee にコンタクトをとってみてください。E-mail: youth@servas.org

もしくは、今回の会議で一番話題に上がった、新しい Servas On Line(SOL とも言い、全く新しい形の Servas のサイトです。) が実際に運転開始されるのをお待ちください。

② Youth にとって一番の大きな課題とは？

今、各国の Servas Youth にとって、いかに若い精力的なメンバーを惹きつけ、もっと参加してもらうかが一番の課題です。そのためにも、サマーキャンプなど、若いメンバーと Peace に着目したイベントを企画、実行する必要があるという認識で一致しています。現に、いくつかの国や地域では、高校や大学などで Servas Youth についてのプレゼンテーションをするべく、準備がなされています。

③ Servas On Line によって Youth の活動に何か変化は生まれるだろうか？

もしこの新しいサイト運営がうまくいけば、若い新しいメンバーを呼び込む良いきっかけになると期待。やはり若い世代は、インターネットサイトの良し悪しで大きく印象を左右される傾向があるので重要だと思います。

④ SYLE (Servas Youth Language Experience, サイル、もしくはシレ、とも発音される) とは何ですか？

18-30 歳の Youth メンバーが一月、ひとつまたは複数のホストのところにステイさせてもらいながら、語学の習得や異文化理解、平和学習を促すプログラムです。(基本的には、1 週間ごとにステイ先が変わるのが一般的だそうです。)

30 歳以上 80 歳までのメンバーの方には、SLE (Servas Language Experience) というのがあります。これは、SYLE と同様の目的ですが、語学習得をするだけでなく、こちらからも何か相手に提供できるスキルがないといけません。例えば「私は日本料理が教えられる」、「私は着物の着付けが教えられる」、といった、もしくは、「日本語を教えられる」というスキルでも勿論いいそうなので、何か相手に響くものを提供することが大事です。

期間は一応、1~1.5 か月だそうで、最初の 2 週間は現地の言語と文化を学び、残りの期間は別のステイ先(複数になることもあり)に滞在しご自身の掲げたスキルの提供に費やしていただくこととなります。

九州支部 M.S

1、もう やめようと 思っていた。

実は私は、SERVAS に入り 10 年近くになるのに、会費だけを支払い続ける隠れ会員でした。オーストラリア在住の時、ドイツ人夫妻よりサーバスを教えてもらい入会したものの、少しだけ豪州国内を回っただけです。後は、家族で旅行する時はいつもホテルで、豪州在住の時は熊本にステイのリクエストがあっても私が出来ないで、個人的に友人を紹介していました。結果、これをきっかけに友人は後に SERVAS に入会しましたが。熊本滞在の時は、我が家が熊本市中心部から近いということもあり、ステイのリクエストが多く、受け入れていましたが、オーストラリア在住の時はその活動も遠く、今まで会報さえ読んでいませんでした。ですから活動していないのだから、休会か退会かと思っていました。



そして 今年春の国内会議が福岡であったのをきっかけに、(近くの福岡なのだから サーバスがどんなものなのか、少し知ってから辞めよう) と思い、国内会議に参加しました。その時に 国際会議が NZ であることを知り(会報を読んだことがないのだから知らない。) NZ ならオーストラリア時代の旧友達に会えるのと、趣味のワイナリー巡りが出来るのと、10 月の期間に私の予定が入ってなかったので 急に参加を決めました。ぎりぎりの参加申し込みではウェイティングリストで、ダメなら縁がなかったと行かないつもりでした。そうしたら 今回応募者全員を受け入れると、特別に SERVAS NZ の決定で、隠れ会員の私まで順番が回ってきました。その後も、母の熱中症、夏の台風の後片付けで父が梯子から落下、死にませんでした。2 ヶ月後の今も入院中です。日本チームのパフォーマンス用の折紙製作も時間が取れず、これは NZ 行きはキャンセルするかなと思っていたところ、私は学生時代からよく旅をしてきて(サーバスではなく)人のご縁を感じてきたので、縁があれば行けるだろうと思っていました。

2.なんだか 行けるようになった。200 人と話をした。

ぎりぎりの参加決定で行けるようになりました。 国際会議、参加国は 58 カ国 200 人が集まり、私はほとんどの参加者と会話をしました。アジア人の顔は覚えにくいのに、私の髪の色が(ヘナで赤い)ので 日本の“S”と、向こうから声をかけてもらいました。九州って日本のどこにあるのか? ほとんどの人は知らないで、私は九州の英文パンフレットを見せて紹介しました。日本でも「待ち合わせに便利」と言われるこの髪の色が、国際会議で日本人の私を見つける目印になるとは(笑)。向こうは日本人と話したくて探しています。赤い髪をしているので他の東洋人は同じ顔に見えるのに、私はよく覚えてもらい、向こう



から声をかけてもらった。結果 200 人の参加者と全員話しました。

私は、会議の間に行われる小旅行には参加せず (NZ には 何回も来ているので)、GA (会議) や様々な workshop に参加して、SERVAS の全体像を掴もうとしました。これからオンラインをどのように進めていくか。LOI の時用のインタビューの仕方等。

3. サーバスの中心にせまった。

自分でも可笑しくなりますが、それまで九州の熊本の休火山のような末端会員が(笑)、会長や EXCO (役員) やユースメンバーとダンスを踊り (プライベートな 深夜ダンスパーティがあった) **世界 1 万 5 千人のホストのメンバーの現状と過去と未来に出会う**なんて。



そのことを娘 (オーストラリア留学中で、中学生のときに一緒にサーバステイをしたことがあり、今 23 歳。面倒くさくてサーバステイは絶対にイヤダ。サーバスに行くならママとは絶対に旅行しない。パパと一緒にヒルトンホテルに泊まるほうが (パパは 社長なので 5 ツ星ホテルに泊まります。笑~) よっぽど良いと、スマホの中に社会と世間がある

人が(笑)、今回国際会議のサーバスユースの話をしたら興味が出てきたようで(笑)、ちょっと娘をサーバスユースに育ててみようかな? と思っているところです。言葉は 13 歳からオーストラリア滞在なので、英語と中国語の 3 か国語 OK なので。

4. ダンスの相手が誰だか 解らなかった (笑)

SI の本部がスイスにあることも、スウェーデンに会長が居るのも、イスラエルの役員と春の福岡の国内会議でスカイプミーティングしたのも、ダンスをする時まで、それが誰なのか全く知りませんでした。会長とダンスをしている時もこの一緒にダンスを踊っている人が会長ということを知りませんでした。

5. 日本人同士の理解の確認ができなかった

今回の国際会議の日本人の参加者の中には、あまり英語のできない人の参加もあったのに、他の国の人たちが夜に集まって、明日のワークショップや、次の国際会議の候補地や、自分たちの主張をまとめるべくミーティングをしていたのに、私達日本人 5 人はそれぞれ違うワークショップや会議、他の活動に参加して、その情報交換を一度もしなくて別れました。それが残念でした。**夜でもその機会を作り集まって意見交換したかった**と思います。日本の中でも、それぞれ違う場所に住んでいるので、次に会える機会があるかどうか解らないのに。会議最終日の最後の日のランチに、私は一度日本人同士で結果報告の場をと提案しましたが、それもバスの都合でできなかったのが残念です。



6. 会議その後

解散後、会場に登山用のジャケット（仏製のお気に入り）を忘れたのに気がついて、な



にしる NZ の春は寒かったり暑かったりで、脱いだり着たりで(笑)、解散後に気づいて、「今から会場に取りに行きます」と電話すると、もう引き上げたあとで、そのジャケットを取りにレンタカーを借りて、もう少しワイナリー巡りを続けるつもりが、そのジャケットを保管している役員の家へと、北島を予想しないドライブを続ける事になりました。滞在は昔からの旧友たちの家やホテルで、サーバスのホストには泊まり

りませんでした。会議の後は旧友たちを車で尋ね、桜の花満開の春の NZ をタラナキ山（私は小さい富士山呼んでいる。ラストサムライロケ地）や、トンガリロ山をハイキングしました。ホテルではお金を盗まれ（私の不注意）しましたが、それ以上に学んだことの多い NZ 行きでした。

近畿支部 I.M

私は 10 月 10 日～10 月 16 日、サーバス国際会議に参加しました。その前後、H さんと私は、NZ サーバスホストにお世話になりました。

ロトルア、タウポ、タウランガ、ワイヒ（10 月 1 日～10 月 10 日）

ケンブリッジ、ハミルトン、オークランド（10 月 16 日～10 月 22 日）



どのお宅でも大変親切にして頂きました。それぞれの皆さんが、私達にして下さった数々の心温かいおもてなしは、忘れられません。

国際会議は、活発な意見交換がなされていました。私は会議場の末席にて会議を傍聴しました。しかし、私はその会議内容をほとんど理解できません。少しの単語が拾えるだけでした。午後からのワークショップにも参加しました。しかし、ここでも英語力不足のため唯座っているだけでした。この国際会議は、今の世界のサーバスの課題や、各国のサーバス活動の問題等々が、毎日話合われていました。やはり会議参加という事になれば、ある程度の語学力が必要だと痛感しました。せっかく参加したのに大変残念でした。



又、日本からの参加者は、5 人という少人数にもかかわらず、一度も集まって情報交換や話をする機会がなかった事も残念でした。

しかし、会議以外の時間には、つたない英語でも沢山の人達と親交を深めることができました。

帰国してから月日も経ちましたが、NZ 滞在中に受けた沢山の親切、暖かい歓迎等、思い出す度に、感謝の念が湧き

ます。

この思いを忘れず、サーバス活動をしていきたいと思っています。

近畿支部 H.T

1、国際会議の始まり

私たちは会議場へサーバスのホストが送ってくれたので、オークランドからサーバスの貸し切りバスで来る人たちより早く会場に着きました。しばらくしてオークランドからのバスが来ました。“T”とポーランドの会議で一緒だった人たちが降りてきました。再会を喜び、ハグしあいました。これからの日々心が躍りました。



始まりのセレモニー、NZはマオリ族を除いては語れない所、セレモニーもマオリにのっとったものでした。記念植樹、続いて記念撮影、以前写真は建物の屋根によじ登って必死に撮られたものが、今回はドローンでいとも簡単に。「へえ～ドローンってこんなのか、」初めての経験でした。

2、会議

全体会議、一つの提案がなされると、発言者が限られているきらいはありますが、次々に発言の札が上がり活発でした。1つに議題に対して事細かな議論があり、時間が足りない位でした。ポーランドの会議ではカウチサーフィンが会員数を伸ばしているのに対して、サーバスは若者の間に浸透しなく、どうすれば良いかも大きな話題になりましたが、今回はそれ程でもありませんでした。今、サーバスが進めている **Servas On Line** が軌道にのれば、サーバスも若者に浸透しているインターネット対応が出来て、サーバスの弱点を大きく改善できるとの思いがあるからだと思います。又、カウチサーフィンはホームステイの個人を基礎とした組織であるのに対して、サーバスは平和の取り組みや、その他色々な委員会組織等、会員同士が繋がって平和な世界を築くように多様な活動をしているという、もともと性質の違うものなのです。それで、どのようにしてより活発なサーバスにしていけるか、色々な考えが論議されました。事実、ピースセクレタリーの D さんの国、フランスは、会員数が多いだけでなく、**Peace Committee** が設置されていたり、私が訪問した時も、ポトラックランチを近くのサーバスメンバーに呼びかけられた所、急にもかかわらず、何と 15 人程が集まったのです、サーバスは豊かで楽しい生活を築くため、日常生活に深く関わっていました。ただ、スマホの世界に住んでいる若者に、集団活動がどれだけ浸透するかが課題だと思いました。又、アジアで 2 つの国が新たにサーバスの加盟国に認められたのは、嬉しい事でした。サーバス本部の役員の改選については、私は T 会長とは違う印象を持ちました。国際サーバス会長は対立候補がいなかったもので、J さんが再選されるのは当然ですが、副会長に A さんが、ピースセクレタリーに D さんが再選されたことは私には納得のいくもので、終わってお二人と **Congratulations** のハグをしあいました。新た

に立候補した若者が選ばれなかったと言っても、彼らがどんなことをしたかがわかり、投票しようという心を湧き立たせることがなかったのではないのでしょうか。事実、現職を破って当選したポストもあるのですから。若者はしようと思えばサーバスユースの活動が出来るのです。でも、サーバスユースのミーティングはポーランドで開かれた後、全く開かれていない、今回のNZでも初めはサーバスユースもあるようなニュアンスが伝わっていましたが、何もされていないのです。

その他、いくつかのワークショップがありました。私は **peace** の分科会に出ました。ポーランドの時は各国の平和の取り組みが報告され、私も東日本震災の事を報告しましたが、今回は平和をどう捉えるか等原則的な物だったので、難しく面白くなく、途中から他に移りました。これからのサーバスにとって大切な **Servas On Line** に出ました。もう **On Line** のひな型が出来ていて、どのようにしてホストを探すか、又、どのようにして会員登録をするかのデモンストレーションが多くありました。インタビューを受けてパスワードをもらったら、ここに参加する事が出来ます。自分の情報も全て公にする物、公にしない物等、選択肢がありました。

今、使っているサーバスのロゴマークに代わって、新しいロゴマークが決まりました。



3、日本からの出し物

前回は近畿から多く参加したので、事前に皆で練習することが出来て、その上、Tさんのオカリナがあり、歌等もしやすかったのですが、今回はそういう条件はありませんでした。そこで、日本の伝統文化、折り紙で鶴と見栄えのするお雛様を作成して、それに作り方の説明文、作成するための折り紙を袋に入れて参加者全員にプレゼントする事と、モンゴルとのピースプロジェクト、モンゴル障害児教育研修の取り組みを壁新聞で紹介する事の2つになりました。サーバス国際会議の実行委員会にメールで知らせた所、**Servas International** 副会長のAさんより、折り紙はワークショップにすればどうかとメールがあり、会議ではその時間と場所を設定して下さいました。お陰で日本からの参加者全員で大忙しで教える程の盛況で、会長のJさんも来て下さり、翌日のニュースレターでは写真入りで紹介されました。壁新聞は見て写真に撮って下さる人もいました。



5、自由時間

食事の時、ブレイクの時、又、夕方や朝食前に自由時間があります。そういう時は参加者と話す絶好の機会です。オブザーバーは会議に参加せず、会議中も他の事をする自由があり、NZのサーバスメンバーが車を提供してツアーを組んでくれたりしました。でも、

私は会議の前後にNZを旅する事もあり、ツアーには参加せず、英語力の不足から理解が



難しいでしたが、せっかく来たのだから、会議に出ていました。ここ **Totara Springs** は豊富な温泉があり、温泉水のプールがあります。夕食後の自由時間はプールで毎日泳ぎを楽しみました。食事の時は色んなテーブルに座り、多くの人と知り合いました。結果、また新たに多くの友達を得て、11月には早速NZの会議で知り合った人がトラベラーとして我が家に来られました。又、次の国際会議が韓国で開かれるかもしれないと、その時のホストを頼まれたり、京都は外国人にとっても人気のある都市なので、訪問の質問を一杯受けました。一方的に質問されたばかりでなく、私も会議で頼みたいことがあって、それはスムーズに事が運びました。あまりに多くの人と知り合ったので、どなたか忘れないように名札を持ってもらって写真に収めました。会議は人と人を結びつけるとても良い機会です。

5、ミーティング

ポーランドの時は地域毎の集まりがあり、日頃、あまり知らないシンガポール、マレーシア等南アジアの方ともよく知り合えましたが、今回はそういう設定はありませんでした。韓国のSさんが東アジアの範囲でしたが、場を設定して下さいました。感謝ですが、今回、新たに加盟国に認定されたベトナムやバングラデシュを含むアジアの国も含めたミーティングがほしかったです。もちろん個人的には話をし、バングラデシュとは旅行寸前まで進んでしまいましたが。

日本からの参加者は、前回は日本チームとしてニューズレターから取材を受け、記事になりましたが、今回は中々全員が集まる事が出来ず、ちぐはぐな面がありました。足元の日本から固めていかねばならないので、これは反省点です。

ニュージーランドの旅～素敵なホストに囲まれて～

サーバスの国際会議が10月10日～16日、ニュージーランドの北島であり、9月30日～10月22日、大阪の会員、IさんとNZを旅しました。会議以外は全てサーバスホスト宅に滞在、どのホストもとても親切で、素晴らしい日々を過ごしました。

10月1日～3日 Rotorua Mr. M.W & Ms. E

1日、朝オークランドの空港に着き、5時にはロトルアに着けるはずであったのに、バスの都合で到着は8時前になってしまいました。でも、バスを降りるやEがにこやかに迎えて下さり、家に着くと早速夕食となりました。Eはとてもお料理が上手、デザートもケーキにアイスクリームをたっぷりミックスして、すっかり安堵の旅の始まりでした。



2日、ロトルアは間欠泉とマオリ族の文化で有名な所です。町中硫黄の匂いがして、湯煙が上がっています。朝から「テ・ピア」に連れて頂きまし

た。そこは一度に噴き出す湯量が世界1を誇る間欠泉と、マオリ族の歌、踊りが楽しめる所で、夜しか活動しない国鳥のキウイも暗い部屋を人工的に作って見せてくれます。間欠泉が地上高く噴き出すさまを見ながら広い敷地内を歩き回りました。全く別府の比ではありません。凄く力強いマオリのショーもかぶりつきで楽しみました。又、ここにはマオリ美術学校があり、伝統文化の制作過程や作品を楽しむことが出来ました。2時半頃、ここを出てロトルア湖畔を散歩しました。白鳥ならぬ、黒鳥に一杯出会いました。夕食は家庭菜園にたくさんある野菜を使った私の野菜料理と(いつも味噌、醤油等を持って行っている)、3時間も肉を煮込んだEの肉料理。デザートはふわふわのケーキ、あまりに美味しいので、いつも作られるか聞いた所、サーバスの人等が来て時だけ、それでご主人はお客さんがとても好きだそうです。

3日、羊ショーを見に行きました。羊の毛をかりとる所、羊を犬が移動させる所、羊の乳しぼり、羊に限らず、ダチョウや全ゆる動物のショーでした。

これでニューランドの代表的な物を見た事になります。ロトルア湖が見渡せるテラスでランチを食べ、次なる所へ出発となりました。

3日~6日 Taupo Mr. P. G

3日、タウポのバス停でGの車に荷物を預け、タウポ湖散策や博物館の見学等、タウポ市内を見物しました。5時半にGが迎えに来てくれてGの家へ。タウポ湖が見下ろせる高台に建っている大きな家。野菜畑、花畑、鶏、蜂も飼っています。Gは国際会議の前に私たち、終われば4組のサーバスゲストがあり、大忙し。夕食は8時と言い置いてそそくさと畑に行きました。夕食はミートスパゲティ、すごい量を作って余った分は冷凍です。何を飲むかと言われて私はワイン、Iさんはビール、どちらも手作りでびっくりしました。

4日、トンガリロ国立公園にはタウポから行けるのですが、バスやホテル等がややこしかったのでGに聞いた所、「1番良いのは自分の車で行く事」と返事をくれ、朝から遠い所へ連れてくれました。ファカパスキスキー場では、皆スキーを楽しんでおり、私たちもリフトに乗ってゲレンデに降り立ちました。その後、周囲の山を見ながら Taranaki Falls というトレイルを歩いて昼食。忙しいのに朝からピザを焼いてくれ、熱いスープと共にほっとするひと時でした。帰る早々また畑へ。夕食はグラタンを作ってくれました。



5日、朝から近くに住むお母さんの付き添いで病院へ。私たちも一緒に行き、今日の夕食は私たちの日本料理なので、スーパーで買い物をしました。その後、お母さんの家へ。Gの家からもタウポ湖が見渡せて良いと思っていたのに、お母さんの家は何と裏庭がタウポ湖に繋がっていて素晴らしい。家具も中世の宮殿のようで素敵なお住まいでした。

6日、国際会議の時、フカ・フォールに行くのですが、車で滝へ直接行くので、滝までの道を歩きました。ニュージーランドには至る所にトレイルがありますが、滝までのトレイルは川の水がとてもきれいで、花や新緑の木々に囲まれた自然は、私が経験した中で1番

綺麗なトレイルでした。

6~8日 Tauranga Mr. O.B & Ms. D

6日、バス停にDが迎えてくれ家へ。ご主人はマオリの人でマオリの伝統料理を用意して下さいました。

7日、タウランガとはハーバー・ブリッジで繋がっているMount Maunganuiへ。マウアオ(山)をハイキングしました。山は海に突き出しているのので、いつもきれいな海が眺められ、快適なハイキングでした。そして、海沿いの娘さんの



家へ。この辺りは邸宅や別荘が多く、ニュージーランド人憧れの地です。娘さんの家もそれにたがわず豪華！上には上があるものです。タウランガに帰って昼からはブッシュウォーキング。自然たっぷりの森の休憩所でランチ、Dが笛のようなものを吹きました。それは鳥が鳴いているような音色で、綺麗な鳥が騙されて飛んできました。ブッシュの木はどれもとても太く、鳥の声を聴きながらの、楽しい本当のブッシュウォーキングでした。

8日、私はいつも手持無沙汰の時のために、旅行には本か手芸を持ってくるのですが、今回はサーバス国際会議でのプレゼントの折り紙を折らねばならないので、そのことで頭が一杯で、何も持ってきませんでした。でも、タウポで大体仕上がってしまったので、本でも買おうと思っていました。タウランガの図書館ではいらなくなった本を1冊1ドルで売っていました。易しい英語の本を何冊か買いました。これは本当に良いシステムだと思いました。

Dが次のホスト宅まで車で送ってくれます。道すがら“Kati Kati”に寄りました。どの家も個性的な絵が描かれ、正に芸術村という感じでした。俳句ストリートがある公園に行きました。松尾芭蕉の「古池や」から始まり、外国のいろんな人が作った俳句が石に刻まれていました。

8~10日 Waihi Ms. S.C

8日 夕方彼女の家に着きました。何とまきストーブが燃やされていました。彼女はキルト好き、素敵なベッドカバーの部屋でした。夕食もスープから始まる素敵なものでした。

9日 彼女が1日車でコロマンデル半島を案内してくれました。何という幸せ！行きたいと思っていた所です。海沿いの道を北に進みました。Hot Water Beach というのがあり、



海の水がHotなんてどういう事だろうと思っていました。現地で納得、何とユニーク。地中が熱い海岸があり、そこに来た海水をせき止めるのです。地中の熱でHotになるという仕組みです。皆、砂で囲ったHot Waterを楽しんでいました。フェリーに乗って対岸に渡ったり、天気にも恵まれて豊かな自然を心に満たした1日でした。でも、これで終わるわけではありません。家に着いてすぐ、

Fish and Chipsをもって Wahi Beach に行こうという事になりました。海沿いで夕陽を見

ながら **Fish and Chips** を食べました。カモメに放ってやると、地に落ちる前に口にくわえました。

10日 ホストがサーバスの国際会議場へ送ってくれます。綺麗な溪谷のウォーキングを楽しんでから、会場に着きました。

～～会議の後～～

16~18日 Cambridge Ms. P.H

16日 P が会場に迎えに来てくれ、彼女の家へ。ケンブリッジはこじんまりした綺麗な町です。夕方早速トレイルを歩きました。P はとてもお料理が上手、こんなサラダは初めてという位いろんな物が入っていて、それだけでお腹一杯になりました。会議場では美味しいとは言えない食事で、ホスト宅の食事を恋しく思いましたが、又、ホスト宅の食事に戻れて幸せです。夕食後、会議場で買ったドイツサーバスが作ったカードゲームをしました。P が他のカードゲームを出してくれました。面白い事この上なし、私はすっかりはまってしまいました。

17日 私が歩くのが好きなのを知って、朝食前から近くの川沿いのトレイルに連れて行ってくれました。朝食後、ハミルトンガーデンへ。ハーブガーデンや日本庭園等テーマ毎に個性的に作られた広い園内をのんびり散策しました。昼食後、P が車を延々と走らせてタスマン海側の海岸へ。同じ海でも太平洋とは海の色も景色もとても違っていました。眼下に広がる海ではサーフィンを楽しんでいます。

18日 今日も朝食前のウォーキング、湖沿いのトレイルに連れて頂きました。朝食後、ハミルトンのホスト宅に送ってくれて、P とお別れです。

18~20日 Hamilton Ms. F. B

18日 昼食を済ませて、B の案内でワイカト川のトレイルを歩きました。家に帰り、快い疲れで休憩していると、「明日は何時のバスで出発するの?」と聞かれて啞然!! 「明日も泊めて頂けるはず」と言うと、そんな約束はしていないと。メールを持って来られて調べるとやはり私が言ったように **2 nights stay** になっていました。B は「自分の間違い」と言って泊めてくれるようになりましたが、「明日は夜にある会合のレポートを作らねばならないので、あなた方がいると集中出来ない。朝8時~午後7時半はどこかに行って欲しい」との事、私たちもそれを了承して先ずはめでたしでした。と言っても B は親切です。私たちが日本人だからと夕食にはお米を炊いてくれました。

19日 朝早くから家を出て近くのトレイルを歩いていると、声をかけてくれる人がいました。話していると、車で1時間以上かかるワイトモ洞窟へ連れて行ってくれるというのです。何という親切! 私がハミルトンへ来たのは、ワイトモ洞窟へ行きたいためでした。B もワイトモへは沢山ツアーがあると断っていたので、当然調べてくれていると思っていましたが、彼女はモンゴルへ行っていたので、そんな約束をした事を全く忘れていたのです。土ボタルで有名なワイトモ洞窟。洞窟はとても規模が大きいですが、土ボタルを見るまではそれだけの話、しかし、土ボタルが見られるという洞内の流れに船で向かうと、天井一

面に土ボタル。光を放ち、何とも神秘的です。世界広しといえども、ここでしか見られない光景。良い人に出会った幸運に感謝します。ハミルトンに戻って夕食を食べた後、彼女の家で一服、偶然の出会いからこんなに良い日になりました。

20日、ハミルトン市内を見物した後、オークランドへ。

20~22日 Auckland Ms. P. R & Mr.L

20日 バス停でRが迎えてくれ、ホスト宅へ。ホスト宅の窓からはオークランドの象徴Mt. エデンやスカイタワーが見えて、最後の宿にふさわしいNZを感じさせるものでした。美味しいワインを飲みながら、私たち日本人に合わせて作ってくれた魚料理を楽しみました。

21日 朝からランチを用意して下さり、車でお出かけ。まずはオークランド市内が見渡せるMt. エデンの頂上へ。スカイタワー、その向こうに続く海、パノラマの景色を目に焼き付けました。次に植物園へ。都心にあるのに、広くて、まるで手を入れた森のような植物園でした。次にタスマンの海へ。岩の上から海が見渡せ、海近くの岩には鳥が一杯いる所です。この時期、ひなが見られます。子供の鳥が親についていく可愛い風景でした。又、ここはトレイルがあって、眼下に海を見ながらウォーキングを楽しみました。NZには至る所に格好の昼食場所が用意されていて、ここでも海岸近くのベンチでランチを楽しみました。



22日 Rがゴルフに行くのでLが飛行場まで送って下さいました。飛行機の出発が早いので、朝家を出たのは7時前、Lは90歳を過ぎているのにしっかり運転されるので、感激でした。

ニュージーランドの旅が終わりました。楽しい楽しい毎日でした。美しい自然、素敵な人たち、みんなみんな本当に有難う！！